

基礎研 レポート

少子化進行に対する意識と政策への期待(1)

経済要因は共通認識だが、子育て中の女性で身体・精神的負担が上回る、若者ほど経済面以外の負担も

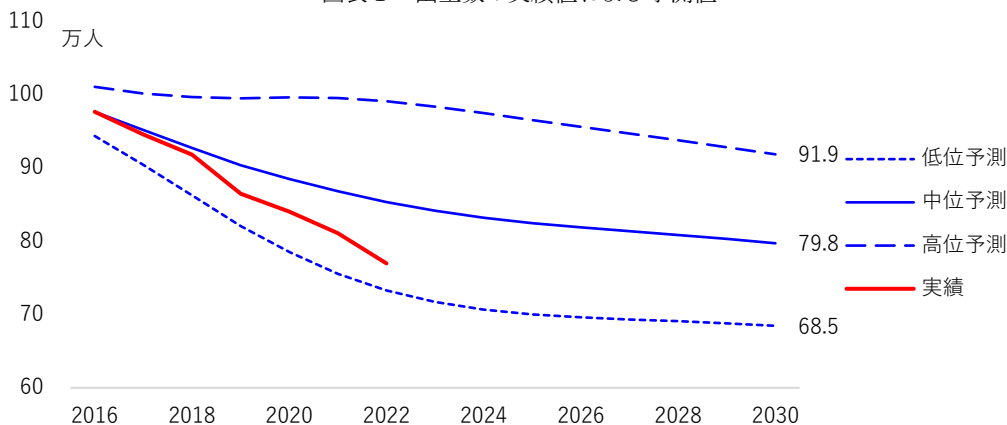
生活研究部 上席研究員 久我 尚子
(03)3512-1878 kuga@nli-research.co.jp

1—はじめに～4月に「こども家庭庁」が発足、少子化進行の原因に対する国民の意識は？

今年4月に子ども・子育て支援政策の中核を担う「こども家庭庁」が発足した。新型コロナ禍の3年余りの間に想定以上に少子化が進行する中で(図表1)、政府は今後3年間で集中取組期間として、男性の育児休業取得率の向上や児童手当の支給対象の拡大、高等教育の奨学金の拡充といった優先度の高い施策を「加速化プラン」として進める方針だ。6月の「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」策定までには、政府の掲げる「次元の異なる(異次元の)少子化対策」の具体的な内容や財源の検討が一層進められる。

このような中、ニッセイ基礎研究所では少子化進行の原因に関わる意識や政府の「次元の異なる少子化対策」への期待についての調査¹を実施した。その結果について、本稿(少子化進行の原因に関わる意識)と[次稿](#)(政策への期待)の2回に分けて報告する。

図表1 出生数の実績値および予測値



(注) 2022年は速報値をもとに日本人人口を考慮して推計したもの

(資料) 国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」および厚生労働省「人口動態調査」より作成

¹ ニッセイ基礎研究所「[第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査](#)」の枠組みの一部、調査時期は2023年3月29日～31日、調査対象は20～74歳、インターネット調査、有効回答数2,558、株式会社マクロミルのモニターを利用。

2——少子化進行の原因に関わる意識～経済環境に加えて子育て中の女性の身体・精神的負担の強さ

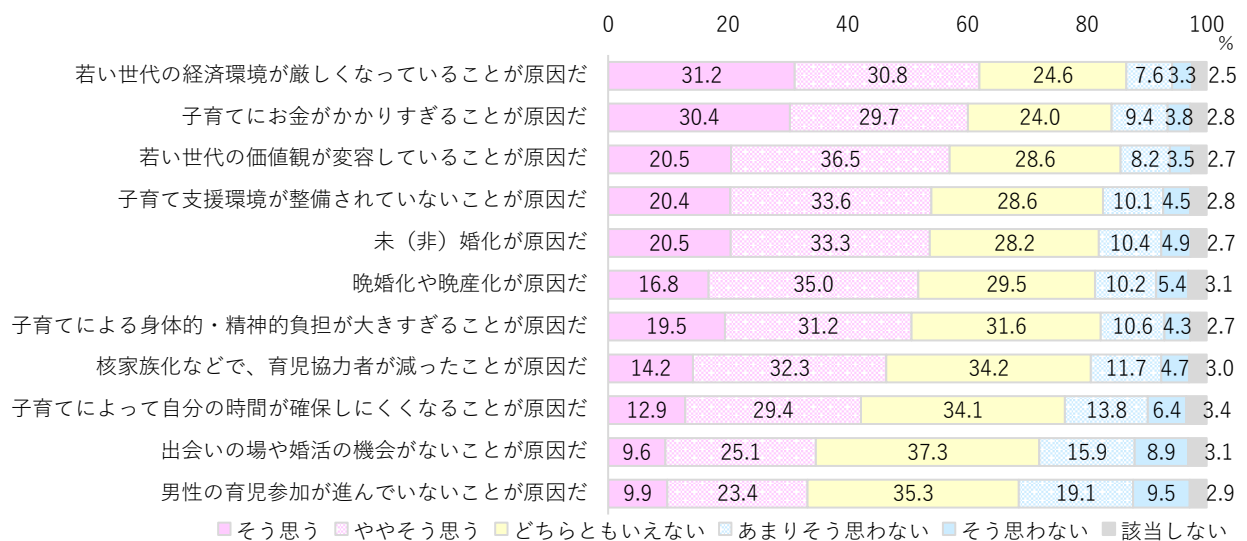
1 | 全体の状況～経済環境やサービス拡充など政策対応可能な課題と若者の価値観の変容などが混在

調査では、複数の少子化進行の原因と見られる項目をあげて、それぞれどう思うかをたずねたところ、そう思う（「そう思う」＋「ややそう思う」）との回答が最も多いのは「若い世代の経済環境が厳しくなっていることが原因だ」（62.0%）であり、僅差で「子育てにお金がかかりすぎるのが原因だ」（60.1%）が続く（図表2）。以下、「若い世代の価値観が変容していることが原因だ」（57.0%）、「（保育所や学童保育の待機児童問題に見られるように、）子育て支援環境が整備されていないことが原因だ」（54.0%）、「未（非）婚化が原因だ」（53.8%）、「晩婚化や晩産化が原因だ」（51.8%）、「子育てによる身体的・精神的負担が大きすぎるのが原因だ」（50.7%）、「核家族化などで、育児協力者が減ったことが原因だ」（46.5%）、「子育てによって自分の時間が確保しにくくなるのが原因だ」（42.3%）までが4割を超える。

一方、「出会いの場や婚活の機会がないことが原因だ」（34.7%）や「男性の育児参加が進んでいないことが原因だ」（33.3%）では、そう思う割合が「どちらともいえない」をやや下回る。

つまり、少子化進行の主な原因には、経済面の厳しさや保育所等の子育て支援サービスの不足など政策的な対応が可能と見られる課題と、若者の価値観の変容など政策的な対応が必ずしもできるわけではない課題とが混在している。

図表2 少子化の原因に対する意識（20～74歳、n=2,558）



（注）上から「そう思う」＋「ややそう思う」の割合が高い順

（資料）ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

2 | 属性別の状況～経済環境の厳しさは共通認識だが子育て中の女性で身体・精神的負担が上回る

① 性年代別～30歳代女性の首位は身体・精神的負担、若者ほど負担感、高齢女性ほど価値観変容

そう思う割合について属性別の違いを見ると、性年代別には、男性より女性で、また、男女とも若者より高年齢ほど多方面に渡って懸念は強い傾向があり、60歳以上の女性では全ての項目で全体を＋5%pt以上上回る（図表3（a））。なお、60歳以上の男性でも全体的に懸念は強いものの、唯一「男性の育児参加が進んでいないことが原因だ」については全体を＋5%pt以上下回る。

図表3 性年代別に見た少化の原因に対する意識

(a) そう思う(「そう思う」+「ややそう思う」)割合

	全体	男性						
		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
度数	2558	1267	150	191	277	249	309	91
若い世代の経済環境が厳しくなっていることが原因だ	62.0	56.4	48.0	47.1	49.1	54.2	70.9	69.2
子育てにお金がかかりすぎることが原因だ	60.1	55.8	51.3	47.6	50.9	53.4	66.0	67.0
若い世代の価値観が変容していることが原因だ	57.0	50.7	40.0	44.0	41.2	49.8	64.7	65.9
子育て支援環境が整備されていないことが原因だ	54.0	48.2	50.7	44.0	42.2	43.0	57.3	54.9
未(非)婚化が原因だ	53.8	50.5	40.0	42.4	43.0	51.4	62.1	65.9
晩婚化や晩産化が原因だ	51.8	47.0	36.7	39.3	39.7	48.2	59.9	56.0
子育てによる身体的・精神的負担が大きすぎることが原因だ	50.7	42.9	41.3	41.9	40.4	35.3	50.5	50.5
核家族化などで、育児協力が減ったことが原因だ	46.4	42.7	40.7	36.6	34.3	39.8	50.5	65.9
子育てによって自分の時間が確保しにくくなることが原因だ	42.3	36.1	44.7	38.2	30.3	32.9	37.9	38.5
出会いの場や婚活の機会がないことが原因だ	34.7	32.8	34.7	30.9	23.8	28.1	41.7	42.9
男性の育児参加が進んでいないことが原因だ	33.3	24.4	30.0	23.6	23.8	20.9	24.6	27.5

	全体	女性						
		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
度数	2558	1291	152	200	267	253	314	105
若い世代の経済環境が厳しくなっていることが原因だ	62.0	67.5	60.5	63.0	67.4	67.2	71.7	75.2
子育てにお金がかかりすぎることが原因だ	60.1	64.4	61.8	61.5	65.9	64.0	65.6	66.7
若い世代の価値観が変容していることが原因だ	57.0	63.3	50.7	51.5	59.9	65.2	72.9	79.0
子育て支援環境が整備されていないことが原因だ	54.0	59.7	56.6	61.5	55.8	58.1	64.6	60.0
未(非)婚化が原因だ	53.8	56.9	46.7	46.0	53.9	57.7	65.3	73.3
晩婚化や晩産化が原因だ	51.8	56.5	42.8	52.0	57.3	54.5	63.7	65.7
子育てによる身体的・精神的負担が大きすぎることが原因だ	50.7	58.2	55.9	66.0	56.2	57.7	56.7	58.1
核家族化などで、育児協力が減ったことが原因だ	46.4	50.1	39.5	48.0	49.8	53.0	53.2	54.3
子育てによって自分の時間が確保しにくくなることが原因だ	42.3	48.3	49.3	47.0	47.6	46.2	49.4	52.4
出会いの場や婚活の機会がないことが原因だ	34.7	36.6	38.2	32.5	31.8	34.8	42.7	40.0
男性の育児参加が進んでいないことが原因だ	33.3	42.1	42.1	45.5	39.3	41.1	43.0	41.9

(注1) 上から「そう思う」+「ややそう思う」の割合が高い順

(注2) 全体より+5%以上をピンク色、-5%以下を水色で網掛け。

(b) 各要因の順位(各属性で「そう思う」+「ややそう思う」割合の高い順)

全体	男性						
	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
経済環境	経済環境	お金がかかる	お金がかかる	お金がかかる	経済環境	経済環境	経済環境
お金がかかる	お金がかかる	環境不整備	経済環境	経済環境	お金がかかる	お金がかかる	お金がかかる
価値観変容	価値観変容	経済環境	価値観変容	未・非婚化	未・非婚化	価値観変容	価値観変容
環境不整備	未・非婚化	自由時間がない	環境不整備	環境不整備	価値観変容	未・非婚化	協力者不足
未・非婚化	環境不整備	身体・精神的負担	未・非婚化	価値観変容	晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	未・非婚化
晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	協力者不足	身体・精神的負担	身体・精神的負担	環境不整備	環境不整備	晩婚・晩産化
身体・精神的負担	身体・精神的負担	価値観変容	晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	協力者不足	協力者不足	環境不整備
協力者不足	協力者不足	未・非婚化	自由時間がない	協力者不足	身体・精神的負担	身体・精神的負担	身体・精神的負担
自由時間がない	自由時間がない	晩婚・晩産化	協力者不足	自由時間がない	自由時間がない	出会いがない	出会いがない
出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	自由時間がない	自由時間がない
男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加

全体	女性						
	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
経済環境	経済環境	お金がかかる	身体・精神的負担	経済環境	経済環境	価値観変容	価値観変容
お金がかかる	お金がかかる	経済環境	経済環境	お金がかかる	価値観変容	経済環境	経済環境
価値観変容	価値観変容	環境不整備	お金がかかる	価値観変容	お金がかかる	お金がかかる	未・非婚化
環境不整備	環境不整備	身体・精神的負担	環境不整備	晩婚・晩産化	環境不整備	未・非婚化	お金がかかる
未・非婚化	身体・精神的負担	価値観変容	晩婚・晩産化	身体・精神的負担	身体・精神的負担	環境不整備	晩婚・晩産化
晩婚・晩産化	未・非婚化	自由時間がない	価値観変容	環境不整備	未・非婚化	晩婚・晩産化	環境不整備
身体・精神的負担	晩婚・晩産化	未・非婚化	協力者不足	未・非婚化	晩婚・晩産化	身体・精神的負担	身体・精神的負担
協力者不足	協力者不足	晩婚・晩産化	自由時間がない	協力者不足	協力者不足	協力者不足	協力者不足
自由時間がない	自由時間がない	男性育児不参加	未・非婚化	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない
出会いがない	男性育児不参加	協力者不足	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加
男性育児不参加	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない

(注) 上から各属性で割合の高い順。ただし、男性では20歳代の「価値観変容」と「未・非婚化」、40歳代の「出会いがない」と「男性育児不参加」、60歳代の「協力者不足」と「身体精神的負担」、70~74歳の「価値観変容」と「協力者不足」、「未・非婚化」、女性では30歳代の「お金がかかりすぎる」と「環境不整備」は同率。

(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

また、性年代別に各要因の順位を見ると、いずれも「経済環境（若い世代の経済環境が厳しくなっていることが原因だ）」や「お金がかかる（子育てにお金がかかりすぎるのが原因だ）」が上位にあり、「出会いがない（出会いの場や婚活の機会がないことが原因だ）」や「男性育児不参加（男性の育児参加が進んでいないことが原因だ）」の順位が比較的低い傾向がある（図表3（b））。

一方、男女とも若者の方が「環境不整備（子育て支援環境が整備されていないことが原因だ）」や「自由時間がない（子育てによって自分の時間が確保しにくくなるのが原因だ）」、「身体・精神的負担（子育てによる身体的・精神的負担が大きすぎるのが原因だ）」が上位にあがる傾向がある。特に30歳代の女性では経済的な要因を超えて首位は「身体・精神的負担」（66.0%、全体より+15.3%pt）であり、選択割合は全体を大幅に上回る。また、女性では高年齢層ほど「価値観変容（若い世代の価値観が変容していることが原因だ）」や「未・非婚化」、「晩婚・晩産化」が上位にあがる傾向があり、60歳以上では首位は「価値観変容」であり、7割を超えて全体（57.0%）を大幅に上回る。

つまり、少子化進行の原因について、経済環境に課題があることは性年代によらず共通認識としてありつつ、未就学児などを育児中の女性では身体・精神的な負担が経済面を上回って非常に強く、若者ほど経済面以外の子育てにかかる時間や労力に対する負担も強く感じている様子が見える。

この身体・精神的負担は男女で大きく異なり、前述の通り、そう思う割合は30歳代の男性では41.9%だが、女性では66.0%と男性を大幅に上回る（+24.1%pt）。この背景には、これまでも各所で指摘されてきた通り、日本では夫婦の家事育児負担が妻側に偏っていることがあげられる。

内閣府「令和2年版男女共同参画白書」によると、6歳未満の子を持つ夫婦の家事・育児関連時間は、日本人の夫では1日あたり平均1時間23分、妻は7時間34分であり、実に6時間以上の差がある。一方、スウェーデンやノルウェー、米国の夫では3時間を超えている（妻は5時間半前後）。また、「令和4年版男女共同参画白書」にて、就学前の子のいる正規雇用者の共働き夫婦で見ても、日本人の夫の家事・育児関連時間は平均1時間16分、妻は5時間12分であり、実に4時間ほどの差がある。

女性では高年齢層ほど若い世代の価値観の変容を感じているが、この背景には、年代によって女性の社会進出状況が大きく異なることがあるのだろう。

1986年に「男女雇用機会均等法」が制定されてから35年余りが経過し、いわゆる均等法第一世代は60歳を迎えようとしている。1997年の改正では、募集・採用や配置・昇進から定年・退職に至る雇用管理について、事業主には女性であることを理由とする差別的取扱いが禁止されるようになった（2006年には男女双方に対して差別的取り扱いが禁止に改正）。また、2016年には妊娠・出産等に関する上司や同僚による就業環境を害する行為に対する防止措置を義務付ける規定が設けられた（厚生労働省「働く女性の実情」）。

更に、1991年に「育児休業法」が成立し、2005年に「育児・介護休業法」が創設された後は育児休業要件の改正などが重ねられ、2021年には、女性のみならず男性の育休取得促進へ向けて、「産後パパ育休制度（出生時育児休業制度）」が創設された。

加えて、2013年には政府は成長戦略として「女性の活躍」を掲げるようになり、2015年には「女性の活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」が成立し、国や地方公共団体、民間企業等に対して、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定や情報の公表が義務付けられるようになった。

このように社会環境が大きく変わる中で、家族形成や働き方に対する価値観は、女性では男性と比べて年代によって大きく異なることは容易に想像がつく。

② ライフステージ別～子育て世帯と高齢世帯で懸念強く、子の年齢が低いほど身体・精神的負担が強い

ライフステージ別には、第一子小学校入学や中学校入学、また、第一子独立以上で多方面に渡って懸念は強い傾向がある（図表4（a））。

各要因の順位を見ると、いずれも経済的要因が首位あるいは2位にあがる（図表4（b））。また、子どもの年齢が低い子育て世帯ほど「身体・精神的負担」が上位にあがる傾向がある。なお、ライフステージ別の結果を性別に見ると（図表略）、「身体・精神的負担」について、そう思う割合は、特に第一子小学校入学の女性（70.1%）で高く（男性は50.8%）、前項で30歳代を中心とした女性で「身体・精神的負担」の順位が高かった傾向と一致する。

図表4 ライフステージ別に見た少子化の原因に対する意識

(a) そう思う（「そう思う」＋「ややそう思う」）割合

	全体	未婚・独身	結婚	第一子誕生	第一子小学校入学	第一子中学校入学	第一子高校入学	第一子大学入学	第一子独立	未子独立	孫誕生
度数	2558	912	315	127	142	78	76	89	156	224	439
若い世代の経済環境が厳しくなっていることが原因だ	62.0	59.0	51.1	57.5	64.8	60.3	50.0	67.4	73.1	68.8	70.6
子育てにお金がかかりすぎることが原因だ	60.1	54.9	53.0	60.6	69.7	61.5	57.9	66.3	66.7	66.5	66.1
若い世代の価値観が変容していることが原因だ	57.0	48.5	52.1	44.1	59.2	61.5	52.6	61.8	66.7	71.4	69.7
子育て支援環境が整備されていないことが原因だ	54.0	48.1	50.2	54.3	60.6	62.8	46.1	53.9	64.7	58.0	60.8
未（非）婚化が原因だ	53.8	47.0	48.6	47.2	50.0	48.7	40.8	62.9	67.3	67.4	64.0
晩婚化や晩産化が原因だ	51.8	43.2	48.6	46.5	64.1	51.3	47.4	56.2	66.0	62.5	59.0
子育てによる身体的・精神的負担が大きすぎることが原因だ	50.7	45.8	49.5	56.7	61.3	56.4	42.1	46.1	57.7	55.4	52.8
核家族化などで、育児協力が減ったことが原因だ	46.4	39.8	46.7	43.3	57.7	50.0	36.8	44.9	56.4	50.4	53.1
子育てによって自分の時間が確保しにくくなるのが原因だ	42.3	36.7	41.6	44.9	47.2	48.7	32.9	47.2	50.6	48.7	45.1
出会いの場や婚活の機会がないことが原因だ	34.7	30.5	29.5	30.7	31.7	32.1	19.7	38.2	47.4	46.0	41.2
男性の育児参加が進んでいないことが原因だ	33.3	30.3	31.7	37.0	38.7	38.5	23.7	32.6	44.2	37.5	32.8

（注1）上から「そう思う」＋「ややそう思う」の割合が高い順

（注2）全体より＋5%以上をピンク色、－5%以下を水色で網掛け。

(b) 各要因の順位（各属性で「そう思う」＋「ややそう思う」割合の高い順）

全体	未婚・独身	結婚	第一子誕生	第一子小学校入学	第一子中学校入学	第一子高校入学	第一子大学入学
経済環境	経済環境	お金がかかる	お金がかかる	お金がかかる	環境不整備	お金がかかる	経済環境
お金がかかる	お金がかかる	価値観変容	経済環境	経済環境	お金がかかる	価値観変容	お金がかかる
価値観変容	価値観変容	経済環境	身体・精神的負担	晩婚・晩産化	価値観変容	経済環境	未・非婚化
環境不整備	環境不整備	環境不整備	環境不整備	身体・精神的負担	経済環境	晩婚・晩産化	価値観変容
未・非婚化	未・非婚化	身体・精神的負担	未・非婚化	環境不整備	身体・精神的負担	環境不整備	晩婚・晩産化
晩婚・晩産化	身体・精神的負担	未・非婚化	晩婚・晩産化	価値観変容	晩婚・晩産化	身体・精神的負担	環境不整備
身体・精神的負担	晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	自由時間がない	協力者不足	協力者不足	未・非婚化	自由時間がない
協力者不足	協力者不足	協力者不足	価値観変容	未・非婚化	未・非婚化	協力者不足	身体・精神的負担
自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	協力者不足	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	協力者不足
出会いがない	出会いがない	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	出会いがない
男性育児不参加	男性育児不参加	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	男性育児不参加

第一子独立	未子独立	孫誕生
経済環境	価値観変容	経済環境
未・非婚化	経済環境	価値観変容
価値観変容	未・非婚化	お金がかかる
お金がかかる	お金がかかる	未・非婚化
晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	環境不整備
環境不整備	環境不整備	晩婚・晩産化
身体・精神的負担	身体・精神的負担	協力者不足
協力者不足	協力者不足	身体・精神的負担
自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない
出会いがない	出会いがない	出会いがない
男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加

（注）第一子中学校入学や第一子独立の「お金がかかる」と「価値観変容は同率。

（資料）ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

③ 職業別～管理職層などは相対的に経済面の懸念が弱く、学生は経済・身体・精神的負担懸念が強い

職業別には、女性比率の高い専業主婦・主夫に加えて、比較的高齢者比率の高い嘱託・契約社員や経営者・役員で多方面に渡って懸念は強い傾向がある（図表5（a））。

また、各要因の順位を見ると、公務員（管理職）を除くと、いずれも経済的要因が首位あるいは2位にあがる（図表5（b））。一方、公務員（管理職）では首位は「未・非婚化」（57.9%）であり、次いで僅差で「価値観変容」（56.1%）が続き、経済的要因（各 43.9%）を大幅に上回る。また、正社員・正職員（管理職）でも経済的要因が上位にあがるものの、首位は「価値観変容」（60.6%）である。

図表5 職業別に見た少子化の原因に対する意識

(a) そう思う（「そう思う」＋「ややそう思う」）割合

	全体	公務員（一般）	公務員（管理職）	正社員・正職員（一般）	正社員・正職員（管理職）	経営者・役員	嘱託・契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業・自由業	専業主婦・主夫	無職	学生
度数	2558	134	57	575	127	44	95	41	397	204	460	363	31
若い世代の経済環境が厳しくなっていることが原因だ	62.0	52.2	43.9	54.6	56.7	61.4	68.4	61.0	62.5	64.2	72.6	65.6	54.8
子育てにお金がかかりすぎるが原因だ	60.1	57.5	43.9	55.8	59.8	50.0	58.9	53.7	60.2	62.7	68.3	60.9	58.1
若い世代の価値観が寛容になっていることが原因だ	57.0	51.5	56.1	47.1	60.6	54.5	63.2	48.8	58.2	50.0	72.0	56.5	58.1
子育て支援環境が整備されていないことが原因だ	54.0	52.2	47.4	50.4	58.3	45.5	51.6	48.8	54.4	50.0	64.1	50.7	51.6
未（非）婚化が原因だ	53.8	44.8	57.9	50.3	53.5	59.1	57.9	43.9	49.9	53.9	63.3	54.5	48.4
晩婚化や晩産化が原因だ	51.8	47.0	49.1	45.9	50.4	56.8	56.8	48.8	49.9	53.9	62.0	50.7	45.2
子育てによる身体的・精神的負担が大きすぎるが原因だ	50.7	47.8	45.6	46.1	50.4	43.2	45.3	48.8	53.1	45.1	59.6	49.6	58.1
核家族などで、育児協力が減ったことが原因だ	46.4	36.6	38.6	43.5	55.1	40.9	52.6	41.5	45.6	43.6	55.9	42.7	45.2
子育てによって自分の時間が確保しにくくなるが原因だ	42.3	35.1	38.6	39.7	37.8	45.5	41.1	39.0	45.1	35.8	50.9	39.4	45.2
出会いの場や婚活の機会がないことが原因だ	34.7	35.1	36.8	31.8	39.4	40.9	34.7	31.7	34.8	27.9	41.1	32.2	25.8
男性の育児参加が進んでいないことが原因だ	33.3	32.1	24.6	31.3	33.9	18.2	23.2	34.1	38.0	24.0	45.7	27.3	25.8

（注1）上から「そう思う」＋「ややそう思う」の割合が高い順

（注2）全体より＋5%以上をピンク色、－5%以下を水色で網掛け。

（注3）公務員（非正規）とその他はサンプル数が少ないため省略

(b) 各要因の順位（各属性で「そう思う」＋「ややそう思う」割合の高い順）

全体	公務員（一般）	公務員（管理職）	正社員・正職員（一般）	正社員・正職員（管理職）	経営者・役員
経済環境	お金がかかる	未・非婚化	お金がかかる	価値観変容	経済環境
お金がかかる	経済環境	価値観変容	経済環境	お金がかかる	未・非婚化
価値観変容	環境不整備	晩婚・晩産化	環境不整備	環境不整備	晩婚・晩産化
環境不整備	価値観変容	環境不整備	未・非婚化	経済環境	価値観変容
未・非婚化	身体・精神的負担	身体・精神的負担	価値観変容	協力者不足	お金がかかる
晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	お金がかかる	身体・精神的負担	未・非婚化	環境不整備
身体・精神的負担	未・非婚化	経済環境	晩婚・晩産化	身体・精神的負担	自由時間がない
協力者不足	協力者不足	協力者不足	協力者不足	晩婚・晩産化	身体・精神的負担
自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	出会いがない	協力者不足
出会いがない	出会いがない	出会いがない	出会いがない	自由時間がない	出会いがない
男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加	男性育児不参加

嘱託・契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業・自由業	専業主婦・主夫	無職	学生
経済環境	経済環境	経済環境	経済環境	経済環境	経済環境	お金がかかる
価値観変容	お金がかかる	お金がかかる	お金がかかる	価値観変容	お金がかかる	価値観変容
お金がかかる	価値観変容	価値観変容	晩婚・晩産化	お金がかかる	価値観変容	身体・精神的負担
未・非婚化	晩婚・晩産化	環境不整備	未・非婚化	環境不整備	未・非婚化	経済環境
晩婚・晩産化	環境不整備	身体・精神的負担	価値観変容	未・非婚化	環境不整備	環境不整備
協力者不足	身体・精神的負担	晩婚・晩産化	環境不整備	晩婚・晩産化	晩婚・晩産化	未・非婚化
環境不整備	未・非婚化	未・非婚化	身体・精神的負担	身体・精神的負担	身体・精神的負担	晩婚・晩産化
身体・精神的負担	協力者不足	協力者不足	協力者不足	協力者不足	協力者不足	協力者不足
自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない	自由時間がない
出会いがない	男性育児不参加	男性育児不参加	出会いがない	男性育児不参加	出会いがない	出会いがない
男性育児不参加	出会いがない	出会いがない	男性育児不参加	出会いがない	男性育児不参加	男性育児不参加

（注）公務員（一般）の「経済環境」と「環境不整備」、「自由時間がない」と「出会いがない」、公務員（管理職）の「お金がかかる」と「経済環境」、「協力者不足」と「自由時間がない」、経営者・役員の「環境不整備」と「自由時間がない」、「協力者不足」と「出会いがない」、派遣社員の「価値観変容」と「晩婚・晩産化」、「環境不整備」、「身体・精神的負担」、パート・アルバイトの「晩婚・晩産化」と「未・非婚化」、自営業・自由業の「晩婚・晩産化」と「未・非婚化」、無職の「環境不整備」と「晩婚・晩産化」、学生の「お金がかかる」と「価値観変容」、「身体・精神的負担」、「晩婚・晩産化」と「協力者不足」、「自由時間がない」、「出会いがない」と「男性育児不参加」は同率。

（資料）ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査」

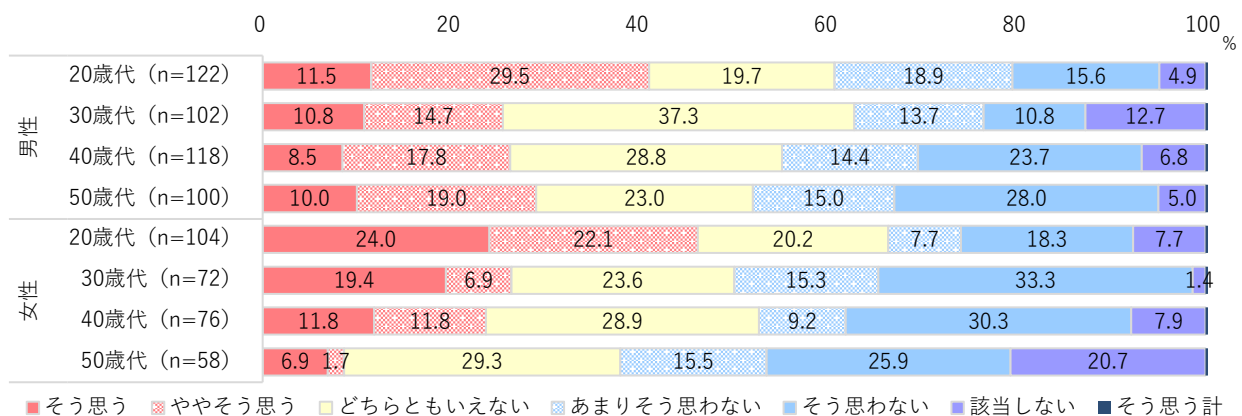
つまり、安定した雇用環境にある高収入層では経済的要因への懸念が相対的に弱い傾向があるようだ。また、学生では経済的要因と同率で「身体・精神的負担」(58.1%)も首位を占め、現在の子育て世代に対して、経済面のみならず身体や精神的な負担の大きさも感じている様子が見えてくる。

3—結婚や子どもを持つ希望～女性は年齢とともに急激に減退、30歳代で子を持つ希望は男性を下回る

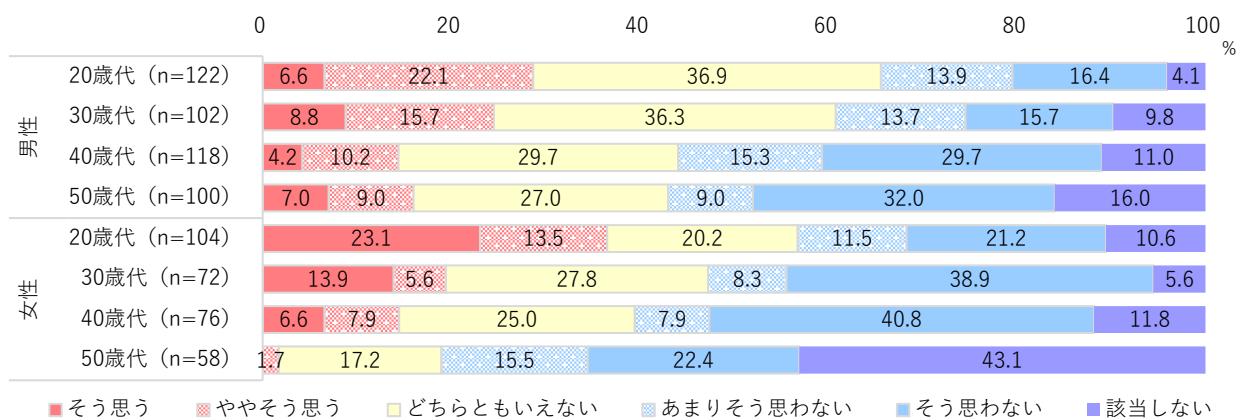
未婚者で子どものいない回答者に対して、「いずれ結婚したいと考えている」かどうかについてたずねたところ、そう思う層は男女とも20歳代(男性41.0%、女性46.1%)で最も高くなっている(図表6(a))。30歳代以降は、男性では20歳代から30歳代にかけて大幅に低下(30歳代25.5%で20歳代より▲15.5%pt)した後は横ばい・微増で推移し、50歳代で29.0%を占める。一方、女性では年齢とともに大幅に低下し、50歳代(8.6%)では1割未満となる。

また、「いずれ子どもを持ちたいと考えている」かどうかについては、そう思う層は、結婚と同様、男女とも20歳代(男性28.7%、女性36.6%)で最も高くなっている(図表6(b))。30歳代以降は、男性では結婚で見られた傾向と比べて少し後ろにずれた形で、30歳代から40歳代にかけて大幅に低下(30歳代24.5%、40歳代14.4%で30歳代より▲10.1%pt)した後は横ばい・微増で推移し、50歳

図表6 結婚や子どもを持つ希望(未婚、子なし)
(a)「いずれ結婚したいと考えている」



(b)「いずれ子どもを持ちたいと考えている」



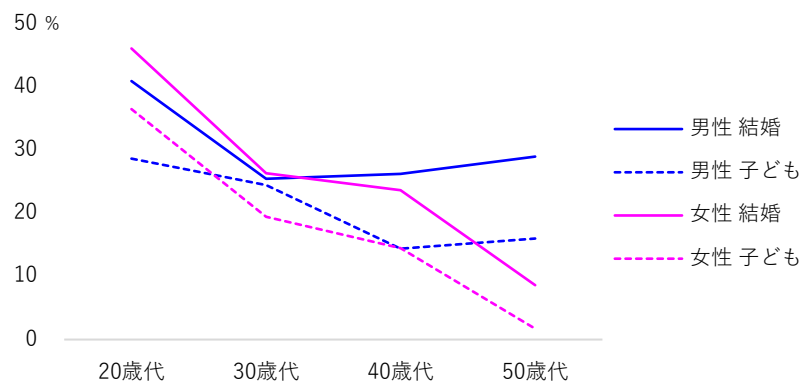
(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査」
(次頁に続く)

代で16.0%を占める。一方、女性では結婚と同様、年齢とともに大幅に低下し50歳代(1.7%)では僅かとなる。

男女を比べると(図表6(c))、結婚の希望も子どもを持つ希望も、女性は年齢とともに急激に減退するため、20歳代では女性の方が男性より強い希望があるものの、30歳代で逆転し始め、40歳代以降では男女差は拡大する。

背景には、女性にとって子どもを持つことは出産が可能な年齢と直結することがあげられる。一方で、出生数の多い30歳代でも女性が子どもを持つ希望が男性を下回る背景には、先に見た通り、日本では家事育児の分担が妻側に偏っている影響も考えられる。30歳代の未婚女性は同年代の子育て中の女性の負担の大きさを見て、子どもを持つことを躊躇する部分もあるのかもしれない。また、30歳代は管理職への登用が増え始め、仕事のキャリアを考える上でも重要な時期であり、男性と比べて出産や育児による影響を受けやすい女性を躊躇させる要因にもなり得るだろう。

図表6 結婚や子どもを持つ希望(未婚、子なし)(前頁からの続き)
(c) 結婚や子どもを持つ希望
(a)と(b)における「そう思う」+「ややそう思う」の合計値



(資料) ニッセイ基礎研究所「第12回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

4—まとめ～経済基盤の安定化や子育て負担軽減策、30歳代での希望大幅減退に対する対策が必要

本稿ではニッセイ基礎研究所が実施した調査に基づき、少子化進行に関わる原因についての意識や未婚者の結婚や子どもを持つ希望について捉えた。その結果、少子化の原因には経済的要因があることは共通認識としてありつつ、子育て中の女性では身体・精神的負担の強さが経済的要因を上回り、若者では経済面以外の負担の大きさ(身体・精神的負担、時間の無さ)も感じている様子が見られた。

また、未婚者の結婚や子どもを持つ希望については、男女とも年齢とともに弱まるが、男性の結婚意欲は30～50歳代で変わらない一方、女性は急激に減退していくことが特徴的であった。

少子化対策を考える場合、[既出レポート](#)でも繰り返し述べてきた通り、将来を担う世代の経済基盤の安定化を図る必要がある(非正規雇用の若者の正規化、正規雇用女性の就業継続など)。加えて、女性の家事・育児の負担感の強さを見れば、引き続き、子育て支援サービスの拡充や男性の育児休業の促進などによって、負担感を低減させる取り組みも必須だ。また、20歳代から30歳代にかけて結婚や子どもを持つ希望が大幅に減退するわけだが、この理由やタイミングについての更なる深堀に加えて、より若い年代に向けて結婚や子どもを持つこと、また子育てにかかる給付金や支援サービスの内容についての啓蒙活動の必要性も感じられる。

[次稿](#)では政府の「次元の異なる(異次元の)少子化対策」への期待について見ていく。